

企業名：           プリマハム          

レポート名：           統合報告書 2021          

#### 1. この会社が目指す姿が理解できるか

当社は目指す姿を「おいしさと感動で、食文化と社会に貢献」と掲げている。従業員が目指す姿を意識しながら働けるためにシンプルなフレーズに改訂したという。非常に分かりやすい目標だと思うが、抽象的すぎるように感じる。おそらく従業員がこのフレーズを意識して働こうが、意識していなかろうが従業員のモチベーション向上には繋がらないと思う。もっと従業員が達成した姿を想像できるフレーズにしたほうがいいのではないかと感じる。

#### 2. この会社の競争優位性が理解できるか

この統合報告書 2021 から当社の競争優位性を大いに感じ取れた。90年にわたる歴史の中で培ってきた独自の技術・ノウハウについて分野ごとに細かく記載されてある。そのページから当社のコア・コンピタンスとなる部分がよく伝わる。さらに、これから注力していく大豆肉についてのページでは、他社製品と比較した価格設定について記載されており、まさに競争優位性を主張している。この統合報告書 2021 の中に「業界トップクラス」という言葉が散見されるが、これもまた他社よりも優位に立ちたいという気持ちの表れだと言えるだろう。

私が特に当社の競争優位性を感じたのは 37 ページの「ハム・ソーセージシェア推移」の折れ線グラフである。このグラフからはたとえ現在のシェア率が 3 位だとしても伸び率が他社に比べて優位であることが明確に伝わり、競争優位性が窺える。

#### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

私はこの統合報告書から競争優位性に持続性があると感じ取れた。なぜなら、将来の成長戦略についての記載が非常に丁寧だからだ。競争優位性の持続性を最も重視している投資家からの質問に対する回答、各資本の用途などについて、数値を軸に的確に記載してあると感じられた。代表取締役社長のトップメッセージからも「グローバルな競争環境が激化する中で今後も成長し続けていくためには、一層の成長投資が必要」と述べており、さらに今後の投資予定までも明らかにしている。統合報告書からは競争優位性に持続性があると判断できるのに十分な情報が記載されていると思う。

#### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

統合報告書の人材育成に関するページを見ると、自身の人的資本の価値向上のため

に行われていることは経営人材・グローバル人材の育成だった。早期のジョブローテーションや海外留学は非常に魅力的な施策だと思う。しかし、正直なところ「この会社に入りたい！自分も成長できる！」と強く思えるような事項が無かった。

#### 5. 報告書にはどのような改善余地があるか

この報告書は膨大な会社情報を網羅的に細かく記載しており、一読すると会社のことが非常によくわかる。トピックごとに写真やグラフを用いた説明であったので見やすかった。他社（食肉関係の会社）の統合報告書と比較してみたが、とても似た構成だった。強いて言えば、組織基盤についての記述を増やしてもいいと感じた。経営陣の能力は会社の魅力に直結するのでアピールすべきポイントだと思う。